

産業都市常任委員会における八千代商工会議所との懇談会報告書

1 開催日時 平成27年10月6日（火）午前10時

2 会場 市役所 4階第1委員会室

3 テーマ お祭り行事について
地方創生への取り組みについて

4 参加者

(1) 八千代商工会議所

会頭、副会頭 3名、専務理事 1名、事務局長

(2) 八千代市議会産業都市常任委員

委員長	成田 忠志	副委員長	大塚 裕介
委員	江野沢 隆之	委員	菅野 文男
委員	松崎 寛文	委員	緑川 利行

5 開催の趣旨

近年、東京一極集中が進み都心への人口流出が進む中、地域活性化を図ろうと、ふるさと産品の販売やご当地イベントなどが全国各地で行われている。

本市でもお祭りや各種イベントなどが頻繁に行われ、本委員会所管である産業活力部においても、様々な取り組みを推進している。

今後、地方を盛り上げる様々な取り組みは不可欠であり、本年は地方創生の元年でもあることから、地方創生について様々なアイデア、企画を提案している八千代商工会議所との意見交換を通じて、今後の委員会活動に生かしたいという趣旨から懇談会を開催した。

6 懇談会の経過

初めに、本委員会及び八千代商工会議所による自己紹介を行い、2つのテーマについて、それぞれ八千代商工会議所より説明を受け、意見交換を行うという方式で進められた。

1つ目のテーマ「お祭り行事について」では、最初にふるさと親子祭について説明がなされた。

本年開催の内容としては、目玉企画として親子大綱引き大会、フィナーレには「音と花火のページェント」と題し、BGMを交えた小型煙火、仕掛け花火を行うなどして、来場者も11万人を記録したとのことであった。

しかし、昨年実施の手筒花火については、観客が少しでも近くで見ようと押し寄せて、危険であることから実施を見送ったため、今年度は上空で開花しない小型煙火を取り入れたが、市民からすれば何か物足りないとの意見を頂いたとのことであった。

来年度以降の方針については、一番の焦点は花火大会の復活であった。

本年は、花火大会復活の検討はされたものの、県立八千代広域公園用地の工事が終了せず大規模な設営ができないことなどにより開催を見送ったことから、総合運動公園多目的広場での開催であった。しかしながら現状としては、安全面の観点から収容人数や出店といった部分で限界を超えており、花火に関しても今年以上のものは打ち上げられないといった問題や、栈敷席の設置場所など乗り越えるべき検討事項は数多くある。花火大会の復活も含め、今後もふるさと親子祭については、検討を重ねていくとのことであった。

その他にもどーんと祭や源右衛門祭について説明がなされ、源右衛門祭に関しては、鍋祭りという認識を持たれることがあるが、もっと若い人たちに歴史を感じてもらえる祭りにしたいとのことであった。子どもたちが自分の生まれた故郷の歴史を知るといのは重要であり、関心を持って頂けたらと意見交換がなされた。

2つ目のテーマである「地方創生への取り組みについて」では、安定した雇用の創出に焦点が当てられた。

商工業の発展により人を増やすという観点から、補助金制度を利用した商店街イベントの実施や、新たな企画として、まちゼミの開催が挙げられた。これは、お店の人が講師となって専門知識や情報といったものを無料で受講者に伝えるゼミを開き、お客様との信頼関係を築いていくというものである。

また、起業・創業支援について、現状を見ると市民が他市で創業するケースも珍しくないのも、起業するなら八千代市といったイメージを持ってもらえるよう、創業支援の充実も図りたいとのことである。

これらに対し、委員からは、若い世代が働きやすく子育てをしやすい環境の整備を進めるべきとの意見がでた。

その他にも八千代市のイメージ作りをしたり、立地の良さを十分に生かすことで、若者が八千代市で暮らしたいと思えるような取り組みを進めていき、八千代市の良いニュースをもっと増やしたいとの意見交換がなされた。

また、八千代市はもうしばらく人口が増える見込みだが、将来的には減少傾向になると予測されることから、人口減少に歯どめをかける取り組みも考えていくべきであり、新川沿いの工夫や東京オリンピックに絡めた政策も魅力的であるとの意見が委員から出された。

以上、2つのテーマについて、2時間に及ぶ活発な意見交換が行われた次第である。

7 懇談会を終えて

改めて感じたことは、まちづくりにおいて議会・行政・関係諸機関との連携は欠かせないということである。今後の八千代市の発展のためにも、本委員会は行政への積極的な働きかけをしていきたい。

